

カリキュラム

機構施設名：千葉職業能力開発促進センター

実施機関名：株式会社タナカサトル技術支援

A.生産管理	生産・開発計画	ものづくりの仕事のしくみと生産性向上
--------	---------	--------------------

コースのねらい	製造業の業務の流れと各部門の役割について学び、製造業全体の基本的なしくみを理解するとともに、製造現場での仕事に対する考え方、自身の立場や責任を理解し、業務改善の考え方を習得する。
---------	---

	「基本項目」	「主な内容」	訓練時間 (H)	
講義内容	1	ものづくりの仕事の流れ	(1) 製造業を取り巻く環境と生産性向上 人口減や少子高齢化による超人手不足時代、物価高騰、働き方改革の 対応などと製造業を取り巻く環境について理解を深め、生産性向上の 重要性を学ぶ。見えている問題は一部であるが主体性・協調性の 向上、業務の可視化で問題を発見できることを学ぶ。	0.5
			(2) ものづくりの基礎 製造業の一般的なワークフローや役割、QCD・5S・4M1Eなど、もの づくりの基礎となるキーワードについて改めて学び、受講者自身の役 割やどのようなことに重点的に注力していくかを考える。	0.5
	2	ものづくり現場の現状と課題	(1) 主体性の発揮 世の中が日々変化していく中で上司の指示待ちではなく現場目線 での業務改善が重要となっている。ワークや事例を通して主体性向 上のヒントを得る。	1.0
			(2) 業務の見える化と問題発見 業務改善を推進していくポイントの一つは問題を発見することにあ る。 業務の見える化・数値化から業務改善の成果が出た事例などから その重要性を学ぶ。	0.5
	3	ものづくりに関する業務改善	(1) 効果的で継続できる業務改善 多くの企業で小集団活動などで業務改善に取り組まれているが、マ ンネリ化し活動が進まなかったり、効果を可視化できていなかったり など十分な成果を上げていない場合が多い。どのように進めていけ ば効果が高く継続する活動ができるかを学ぶ。	0.5
			(2) 職場の問題解決【演習あり】 なぜなぜ分析をベースに、グループワークにより問題を論理的・多 面的に捉え根本原因の抽出・具体策立案までを実施しその方法を習 得する。 アサーティブな議論ができるようルールを設定し、共感・気付きを得 る。聞く・話す・書くことの重要性を体感する。	2.5
(3) 成果を上げる業務改善のポイント 職場の業務改善では、個々の仕事の改善よりも仕事と仕事の間や 部署と部署の間の改善の方が成果が上がるケースも多い。協調性や チームワークの重要性など業務改善のポイントを事例を交えて学ぶ。			0.5	
		合計時間	6.0	